



お便り紹介

1945年、敗戦の年、私(昭之助)は山形市の中学2年でした。敗戦直前の7月、県内の海軍航空隊基地の建設に「動員」され、「花もつぼみの若桜」と下級生が唄う学徒動員の歌に送られて汽車に乗りました。

ロードローラー(道路工事などで路面を平坦に均す建設機械)にロープを付け、それを曳いて滑走路を往復することが仕事でした。「若桜」は「ガソリン」に変身したわけです。

あるとき、「空襲警報」が発令され、退避命令が出ました。建設途中の飛行場に身を隠す場所などあるわけがないのですが、避難場所を探しまわり、ようやく地下壕の入口らしいものを見つけました。入口に銃を持った水兵が2名いました。入ろうとすると「お前らの入るところではない」と止められました。最初は冗談かなと思い、一歩前に進むと2名の水兵は剣を付けた銃を私の顔に突きつけ、「前に出たらこれだ！」喚きました。

目の眩むような感じで、全身の力が抜けてゆくのが分かり、今にも崩れ落ちそうでした。今の今まで「兵隊さんが守ってくれる」と素朴に信じていましたが、それは単なる思い込みに過ぎませんでした。私にとり、地下壕への避難を拒まれたことより

も大きい衝撃でした。

軍は、標榜するように、「国を守り、国民を守る」ためなら、常に守るための力を保有しなければなりません。したがって、地下壕(航空隊幹部用)に、関係者以外の進入を阻止することとは、軍の論理としては正しいと言えます。

軍は戦闘実力を削ぐようなものは極力排除しなければならぬし、それが軍の論理であろうと考えます。しかし、戦力を阻害するものを排除し続けたとき、最後に残るものは「軍」だけです。守る対象が無くなった軍は何を目的とするのだろうか？ 残念なことに、いくら考えても私には分かりませんでした。

また、「守られるべき国民」が、軍の支障になったとき、「守られるべき国民」は容易に「排除されるべ

虫めがねもて

意見広告の

名前追う

九条死守の
知人隣人

(大分市 T・Sさん)

きもの」に転化するのが軍の論理であると考えます。この事例は、アジア・太平洋戦争にも多く見ることができました。

(川崎市 五十嵐昭之助さん)

脱原発、オスプレイ、新たな問題に直面、大いに頑張りましょう。平和を求めて30年、大変、苦労さまです。

(別府市 N・Mさん)

「憲法・教育基本法改悪に反対する市民連絡おおいた」で知りました。家族が病気で外に出るのが難しいのですが、「赤とんぼ」の意見広告はとても大切な事だと思います。千円同封しました。7月31日に間にあうか解りませんが、よろしくおねがいします。

(大分市 M・Yさん)

梅雨と台風と鹿児島はこれに桜島の降灰。被害は出なかったでしょうか。

日本の政治家(屋?) どのようなのでしよう。

自衛隊はめいさい服に武器(武機)を持って住宅街を行進。

こわいです。少しづつでもなく、大中に軍隊に慣れさせられていくのです。

「戦場にまつ先に送られるのは若

い人だ。美しい言葉で飾られて、その時はやってくる」この言葉は何か読んでいる時に、メモに残した文言なのですが。

知人に「子供のタンレンに自衛隊に何週間か行かず教育があるの?」と言ってる人がいて、私は「自衛隊って人を殺す訓練をしている所よ」と言った覚えがありますが、普通の生活の横に自衛隊がいるようになってきます。

こわいです。
赤とんぼ、ささやかに応援!!

(鹿児島市 Y・Tさん)

原発、基地問題をはじめ消費税、社会保障等、政治家といわれる人々の発言の無責任さと軽さ、ホトホト目にあまります。

基地や原発を考える時、一部の人間(地域)の利益や幸せが他の人間(地域)の犠牲の上に成り立っている現実。それを私たちは「ぶつ」と思いこんでいる。無関心といえる感覚になっているのではないか。「異様」が「ぶつ」に映る怠惰がとても怖いと「C M天気図」の天野祐吉さんは言う。

でも声を出そう!!「勇気を持って前へ進もう」小さな声でもたくさん集まれば、大きな声になります。くじけず、ひるまず、頑張りましょう。

(昭和の老人)

日出生台での日米共同訓練に反対します!!

抗議文

合衆国大統領 バラク・オバマ 殿

内閣総理大臣 野田 佳彦 殿

私たちは、「武力で平和は作れない」ことを確信して、日本列島からすべての米軍基地と兵員を撤去・撤収するよう求めて、ここ日出生台で、これまでに繰り返し強行された米海兵隊の実弾砲撃訓練に、そのつど、強く抗議してきました。

同じ思いで、本日開始された、10年振り5回目となる日米共同軍事訓練に怒りを込めて抗議し、直ちに中止するよう求めます。

日本列島は今もまだ、2011年3月11日の大震災とそれによって惹き起こされた原発事故から立ち直れてはいません。原発事故は今も続いており、16万人を超える被災者が日常の苦難と先の見えない不安の中に、ほとんど置き去りにされています。そうした中で莫大な費用を浪費する軍事訓練を強行する日米両政府には特別な怒りを禁じ得ません。

オバマ大統領に聞きたい。

合衆国はよく「戦争中毒の国」と呼ばれています。常に地球上の各地に軍事基地を置き、軍隊を配置して武力行使のチャンスがうかがっています。合衆国大統領及び政府の使命は、戦争によって肥大し続ける強者・軍産複合体の利益を守ることだけなのですか。私たちの目には、合衆国大統領は立候補の段階から退任まですべて強者が取り仕切っているように見えています。合衆国の誇る民主主義が、平和の対極におかれている実態に暗澹たる思いでいます。

合衆国は今世紀も同盟国に耐え難い苦痛を与え続けながら、戦争立国の方針を変えることはないのですか。武力によらず、いかに困難であっても平和外交に徹するという意思の萌芽はまだ見られないのですか。

野田総理に訊ねたい。どのような理由があって日本政府は米国のいいなりを続けるのですか。日本にある米軍基地に、私たちの血税がこれまでどれほど注ぎ込まれ、周辺の人々がどれほどの苦痛を味わっているか考えて見たことがありますか。

戦後、この国に、憲法九条を文字通りに解釈し、独自の平和外交に血のにじむような努力をした政権が一度でも存在したでしょうか。私たちはそのような政治家を選んで平和に暮らしたいと考えています。際立って米国一辺倒の野田政権には非戦・平和の基礎作りなど望むべくもないことを確認して落胆しています。米国のいいなりになることで、この国の歴代政権は易きに流れ、政治家たちは楽を極めてきたのだというほかはありません。

私たちはそれを売国行為と呼びます。心して政治に当たって下さい。

日米共同軍事訓練を直ちにやめよ！すべての米軍基地を撤去せよ！米軍はすべて本国に帰れ！米国は日本を属国扱にするな！日本政府は全方位平和外交に励め！



2012.8.19

日出生台・日米共同訓練に抗議するゲート前集会参加者一同

でんでん虫のねごと



始まりとおしまい

とにかく始めは、何をやるにしても仲間が必要だと考えた。人を集めたり、つないだりするために小さな会報が要するという事になった。作家の松下竜一さんに相談すると、「原稿さえ集まりや簡単なもの」と第一回の編集を引き受けて下さった。

会報「赤とんぼ」のはじまり。第一号の一面には、寄村さんが「もつじつとしてはいられなくて」と題して、反戦への思いを綴った。その気持ちは今もずっと変わらな

い。けれども実際には、なかなか原稿が集まらない。「原稿が来んのじゃき、どうにもならんわ」と言われ「みんなで勉強しなさい」と松下さんの手を離れたのが何号目であつたか。

仲間の一人であつた小野さんが「新聞切り抜き帳」というコーナーを続けてくれて形も整ってきた。政治や社会の難しい部分は松下さんや寄村さんに頼りつつ、私や小石さんもすぎ間を埋める埋め草を、ちよこつと書いたりしていた。

毎月発行するというエネルギーは、一ヶ月おきになつたりしながら、編集も小石・田中組から若手にバトンタッチ。

「九条を、平和を旗印に」と手

をあげて、意見広告は今年で三十年になる。

いつのまにか「でんでん虫」というコーナーができ、何故だか続いてきたが、そのいきさつは、どうしても思い出せない。ただ何事にもろるまで、ぼんやり私のネーミングは当たっているようだが、のろのろと十年、長すぎた気がする。(あー、赤とんぼ三十年か)と言いつつ、五十四からで八十四才、当然ながら年を取ったものだと思ふ。しかし、これは大変だった。

さて、そこで…と言葉を改めるほどでもないのだが、今回で「でんでん虫のねごと」のコーナーを終りにする。何の決めごともないコーナーだったからまことに勝手である。

先ず、目が悪くなつて読み書きが全く不自由になつてしまった。耳も聞こえない。年をとるって、こんなことなのかとつくづく、身にしみる。杖をついてよたよたと歩く。これもまあよしとしよう。人はみなやさしくしてくれる。鏡は、見えないから、しわもしみも見えないで幸せ。

でんでん虫は引つ込みますが志は消えるわけではありません。一人一人の赤とんぼの意見広告も続くだろうし、会報の赤とんぼもお手もとに届くでしょう。どうぞよろしく。

じゃあ、でんでん虫はこれでおしまい。(2011年田中三和)

憲法・教育基本法市民連続講座2012

「伊方の話を聞こう。」

～伊方原発がもたらしたもの～

と き/9月1日(土) 13:30～

ところ/アートプラザ研修室

お 話/齊間 淳子さん

(八幡浜・原発から子どもを守る女の会)

近藤 誠さん

(伊方原発反対八西連絡協議会、元南海日日新聞記者)

主 催/市民連絡会おおいた

連絡先/090-4583-8797 (池田)

次の講座は、12/1「岩国」がテーマです。

憲法講演会

「原発と憲法：第三の生存権へ」

講 師/中里見 博さん
(徳島大学准教授)

と き/11月18日(日) 13:30～

ところ/ソレイユ7F カトリア

主 催/平和憲法を守る会・大分 他

連絡先/097-534-3436(共同法律事務所)

名もなきひとむれ歩きます
12月8日(土)13:30 大分トキハ前

子どもたちの未来のために今できること

★田中 優さん講演会 (予定)
またはDVD上映会★

9月12日(水) 14:30～
コンパル3F 多目的ホール

★原発やめようえ
おかあちゃんパレード★

9月16日(日) 10:30～(次は10/28)
大分市大手公園集合・解散

主 催/ハッピーパレード月イチ実行委員会
連絡先/090-5487-6961 (葛城)



「非行」と向きあうのがパスタの会が、「非行」からの立ち上がり」をテーマに講演会をするそうです。

と き 10月21日(日) 13時半

ところ 大分市情報学習センター(大分1の3)

講師 毛利 甚八さん他

参加費 1,000円

問合せ 0900948214668和田さん

声に出して読んでみましよう憲法九条

「戦争の放棄、戦力の不保持・交戦権否認」

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

赤とんぼの会事務局 〒八七〇〇八五五 大分市豊饒四組 みんなの家

TEL/FAX/097(544)8892(郵便振込)015401012160
ホームページ/ <http://aka-tombo.com/> (メール) aka-tombo@hotmail.co.jp